

萩にあしあと残そうよ

「計画休務（自宅待機）の日々」

令和2年(2020)
6月1日発行
一第8号一



贅沢なケーナ練習場

「日々の暮らし」

「最後の一人暮らしみたいだよ」と隣室の同僚に話をして笑われてしまいました。室内で読書をしたり、ケーナを吹いたり、パソコンに向かったりする日々。外出は、時々ランニングに出かけるほか、必要があれば食料品や日用品の買い出しに行く程度です。

週に二三日休んでいる彼もやることなく、退屈なことに飽きてきたと言っています。歳が一五ほど離れていますが、お互いに「話し相手」がいることは救いですね。ベランダに彩りが欲しくなりブルーサルビアを置きました。ますますです。

「あしあとノート」

◆萩・魅力PR大使再任◆

明治維新一五〇年を機に、萩の魅力を伝える伝道師として募集された「萩・魅力PR大使」。昨年度末で任期満了となりましたが、再募集に挙手して任命証が届きました。

活動内容は、萩の魅力を言葉や写真やSNSなど、各自の方法で誰かに伝えることです。本紙の発行も、大使の活動として位置づけられるものになります。自分自身でも色々と見聞しながら、萩を紹介していけたらと思います。



萩にゃん。と一緒に
萩のPRを続けていきます

◆三条実美の歌碑◆

寮から近い明神池の畔に、幕末から明治にかけて活躍し、郷里の塩原温泉にも足跡の残る三条実美の歌碑が建っています。昨年、萩市に越してきてすぐに見つけましたが、未報告につきご紹介します。



この国の濁らぬ水にすむ魚は
遊ぶさまさへ勇ましきかな

文久三年（一八六三）八月

一八日の京都での政変によって、尊攘派であった三条実美は長州に下ります。「七卿落ち」と呼ばれる出来事です。

その後、山口湯田に隠棲していましたが、同年一月に、萩藩主毛利敬親の誘いで萩を訪れました。その際、明神池に遊ぶ魚を見て詠んだ歌ということです。

昭和十一年（一九三六）、王政復古七〇周年にあたり建立されました。

◆五月は夏みかんの季節◆

萩暮らし当初からお世話になっっている組内の平生さんからもぎたての夏みかんをいただきました。甘酸っぱくて瑞々しい果実に、爽やかな気分になりました。おかげさまで、実家の両親にも送り届けることができました。



庭に実った夏みかんを
分けていただきました



夏みかんが開花し、町が
甘い香りに包まれました

五月上旬、夏みかんの花が咲き始めました。白く清楚な花から漂ってくる香りは、何度嗅いでも良い匂いです。

◆友人の田植えの手伝い◆

美祢市の友人から声がかかり、五月三〇日に田植えの手伝いをしました。苗箱を運んだり、洗ったりする程度ですが、昨年よりは「手」になれたような気がします。この友人のおかげで、米を買うことなく萩暮らしができます。本当にありがたいことです。



5月末に田植え
9月下旬に稲刈り

◆雨情特別号・後日談◆

四月に発行した野口雨情特別号を、鹿沼市の山登氏（雨情孫）にも送付したところ、お返事とともに資料をお送りくださいました。世間も少し落ち着いた五月末、報告を兼ねて末武氏を訪ね、特別号をお見せすることもできました。紙面を絶賛いただき、お店に置きたいと言ってくださいました。嬉しいですね。

〔自由気ままな歌日記〕

小魚の群れ一斉に鰭振れば

さざ波の立つ静穏の川

(五月五日)

高塀に夏柑の花見えぬとも

甘い香りはあふれ漂う

(五月五日)

自宅にて

こもれる日々慣れたれば

欲も少なく鎮まる心

(五月二〇日)

〔仕事はぶっだいい！〕

コロナ禍により、五月は

丸々計画休務、いわゆる自宅

待機で過ごしました。たまに

はと思った朝礼にも「出る必

要はない」と言われ、少し寂

しい気持ちでした。

ところが、環境には次第に

馴染むもので、読書や書き物

をする毎日に苦痛を感じにく

くなってきました。

でも、少しずつ「社会復帰」

に向けての準備を始めていま

す。本格的な活動はまだ先に

なりますが、仕事に向かう姿

勢を正して、できることに取

り組んでいきます。

〔萩に関する自由研究〕

『萩市のシンボルあれこれ』

市のホームページを見てい

たら、萩の紹介に使えるネタ

があったので少し調べを進め

てみました。

きっかけは、萩にまつわる

曲をケーナで吹いてみたいと

思ったからで、探していたら

「萩のよろこび」の音楽ファ

イルや譜面をダウンロードす

ることができるとが分かり

ました。なかなか素敵なメロ

ディで、吹いたり歌ったりし

て親しんでいます。

◆市章◆



城下町・萩らしい

萩市のシンボルでもある城

下町の土塀の文様をモチーフ

に、全国の中にあっても一見

で「城下町・萩」と認識でき

るように記号化されたもの。

◆市の木◆ヒノキ・マツ

松といえば、菊ヶ浜や橋

本川沿いに見られる黒松が

見事。山間部には赤松もみ

られる。桧については、建

築用材調達のために各地に

多く植林されているため。

◆市の花◆ツバキ・ハギ

椿といえば笠山の虎ヶ崎

周辺の群生林。約二万五千

本のヤブツバキが繁る。

「萩」という地名の由来

として、ツバキがまつて

ハギになったという説と、

周辺に萩がたくさん生い茂

る山があったという説とが

あるらしい。

◆市の果樹◆ナツミカン

萩の城下町の風景に欠か

せない夏みかん。明治九年

(一八七六)、明治維新によ

り職を失った武士への救済

措置として栽培が始まった

現在も農地のみならず、あ

ちこちで目にする。

◆市の生物◆ホタル

六月になると市内各地で

ホタルが見られ、イベント

等も開催される。

◆萩市民の歌◆

『萩のよろこび』

作詞 岡 輝明

作曲 津室ひとみ

一 潮の香運ぶ 朝風に

希望に弾む 窓開ける

みんなでつくる わがまちは

みどり輝く 花のまち

歌おう 歌おう

萩に生まれた喜びを

ああ ふるさと萩は

ふれあいつくる 虹のまち

二 水面きらめく 阿武川に

城下の松も 映えて流(ゆ)く

友と語らう わがまちは

夢をかなえる 学びのまち

唱おう 唱おう

萩に育った喜びを

ああ ふるさと萩は

維新を誇る 永久(とわ)のまち

三 めぐる季節の やさしさに

笑顔あふれる 灯がともる

心をつなぐ わがまちは

実り豊かな 恵みのまち

謳おう 謳おう

萩に住みなす喜びを

ああ ふるさと萩は

愛を育てる 人のまち

